学べるゲラ

第73回

自転車先進都市

※2024年10月の毎日新聞記事を元にした文章です。
校閲し、直すべきところを指摘してください。

北欧・スウェーデンの首都、コペンハーゲンは「自転車先進都市」として知られる。市内に約400キロもの幅広い専用道が張り巡らされ、自転車がびゅんびゅん駆け抜ける。一定速度で走るとほとんど信号にかからないよう、工夫した区間もある。

日本では11月1日から、自転車を巡る罰則が変わる。酒気帯び走行や、スマートフォンを見ながらの走行が新たに処罰対象となる。昨年、国内で自転車が関係した交通事故は約7万2000件起き、全体の約24%に及ぶ。約8割が自動車との事故で、約4%は歩行者を巻き込んだ。危険走行の取り締まり強化は必要だろう。

自転車は車道を走るのが日本での原則だ。今後は反則金制度も導入される予定で、信号無視などの違反が自動車運転と同様「赤切符」の対象となる。歩行者や自身を守るため、ルール順守につなげたい。

ただし、車道の環境は自転車にとって厳しい。自転車マークが描かれ右側走行を指導する道路が増えた。だが、加速した自動車が頻繁に真横から追い越し、利用しにくい道も多いようだ。

自転車専用通行帯はどうか。小紙の本社近くに整備されているレーンを試走した。多くの自動車が停車して進路を塞ぎ、何度も車道に入る必要があった。おそらく「ママチャリ」は怖くて走れまい。

コペンハーゲンの自転車道は温室効果ガス、市民の健康増進などを目指し、計画的に整備された。日本の自転車行政も、規制とともに自転車に優しいまちづくりを両輪としたい。